

黒龍江省国営農場の有機・緑色食品生産の実態と課題

—紅星農場の事例を中心として—

日本大学 劉 坤、日本大学大学院 陳 徳江、日本大学 盛田 清秀・清水 みゆき

1. はじめに

近年、「食の安全」、「農業と環境」という視点から、有機農業に対し世界的な関心が急速に高まっている。先進国を中心に有機食品或いはオーガニック食品ブームが展開している。中国で有機農産物に注目が集まるようになり、生産が拡大し、また認証制度が制定されたのは、このような世界の潮流に沿うものである。ただし、中国は「緑色食品」という独自の有機生産・認証制度を発足させている。

黒龍江省国営農場は緑色食品の生産を重視してきた。1990年12月開催の中国農業部第1回緑色食品認証会議では、黒龍江省国営農場農墾総局に属する18企業の22商品が認証され、全国認証124商品の18%を占めるほどであった。2009年現在、黒龍江省国営農場農墾総局は84の緑色食品製造企業を有し、緑色食品商品数は255に達している。また有機食品製造企業数は55で、有機食品商品数は200となっている。有機・緑色を合わせた農産物作付面積は合計150.9万ha、黒龍江省国営農場の総耕地面積の57.1%を占めている。また、全国の緑色食品標準化生産基地数は60、耕地面積合計は55万haであり、全国に占める割合はそれぞれ20.5%、11.5%である。有機・緑色食品に関して、黒龍江省国営農場は中国最大の生産主体である（註1）。

本報告は黒龍江省国営農場の一つである紅星農場（以下K農場と略称）の実態調査を踏まえ、国営農場における有機・緑色食品の生産動向と流通実態を整理するとともに、実際に生産を行っている家族農場における有機・緑色食品の生産および経営の実態を明らかにしたうえで、生産及び経営管理上の諸課題に関する考察を行う（註2）。

中国の有機・緑色食品に関連する研究は甲斐[1]、鄒ら[3]、宋[4]、趙[6]などが挙げられる。これらの研究では有機食品や緑色食品の定義や認証基準、認証制度の展開などを中心に整理している。また鄒ら[3]ではさらに中国全体の有機食品、緑色食品の生産動向を明らかにしている。さらに林ら[7]は、認証制度を解説するとともに、米の生産・販売実態について事例分析を行っている。しかし、本報告で対象とする国営農場、さらには家族農場における生産および経営実態に関する実証的研究はほとんど行われていない。

2. K農場の概要及び有機・緑色食品の生産動向と流通実態

1) K農場の概要

調査対象のK農場は小興安嶺南麓に位置し、行政組織では黒龍江省農墾総局の北安支局に属している。2009年現在K農場の総面積は3.9万ha、耕地面積は2.2万ha、うち有機農産物作付面積は4,533haである。農場内の家族農場数は3,950で、7個の管理区のもとで管理されている。

2) 有機・緑色食品の生産動向

表1はK農場における有機農産物作付面積の推移を示している。同表は、作付面積が2000年の2,147haから2009年の4,533haへと約2倍に増加したことを示している。これはK農場がこの間、積極的に有機生産を推進したことを示すものである。いずれの品目も増加しているが、2005年以降に限ると有機野菜の作付増加が顕著で、2009年の173haは2005年の15haの約12倍に相当する。この背景には、K農場が全国で唯一

表1 紅星農場における有機作物作付面積の推移

単位: ha			
年	2000	2005	2009
品目			
ダイズ	1500	2300	2933
コムギ	295	380	500
トウモロコシ	112	128	140
オオムギ	95	147	200
ヤサイ	—	15	173
インゲンマメ	20	86	100
その他経済作物	125	233	487
合計	2147	3289	4533

資料: 農場調査により作成。

註1) その他経済作物はイモ類、てん菜、雑穀等を指している。

認証を得ている有機野菜漬物製造企業を設立し、その生産を拡大していることによるものである。

3) 有機・緑色食品の生産契約条件と費用負担

K農場における有機・緑色農産物の生産は、農場当局と実際に生産に取り組む家族農場との契約によって行われている。また、有機・緑色農産物生産圃場は指定され、家族農場が地代を支払って契約生産を行っている。契約には有機（有機転換を含む）と緑色の2タイプがある。有機生産契約に関しては、農場側が定めた規定に基づいて家族農場が生産を行い、認証に関する諸費用は農場が負担している（賞罰制度がある）。生産物は当年（12月1日）の市場価格に20%を上乗せした価格でK農場が全量買い取る。また有機転換中の3年間は地代の半分の減免し、生産物は「転換期食品」として区分され、当然ながら有機食品とはならない。緑色生産契約でも所定の規定に基づいた生産が行われ、同じく認証に関する諸費用は農場が負担する。ただし農場は生産物の買い取り義務はない。なお、一部の緑色食品（AA級）については転換期間中の地代は3割が減免される。

4) K農場における有機・緑色食品の販売ルート

有機食品の加工原料は農場が全量買い取りし、加工して販売する（販売先は小売業7：団体購買2：輸出1）。緑色食品は直接販売（農場、仲売人）がほとんどとなっている。

3. 家族農場による有機・緑色食品生産および経営の実態

今回の報告では、有機・緑色食品（A級）を生産する5戸の家族農場を抽出し、生産実態や経営収支等の調査を踏まえて、生産及び経営管理上の課題を明らかにすることを試みている。

（註1）参考文献〔2〕を参照。

（註2）黒龍江省国営農場における家族農場の詳細については、陳徳江・劉坤・盛田清秀・清水みゆき「黒龍江省国営農場における家族農場の農地契約と経営展開－黒龍江省綏濱農場の事例を中心に－」『農業経営研究』第49巻第1号（掲載予定）を参照されたい。

参考文献

- [1] 甲斐論「中国における食品の生産と流通の現状」『モダンメディア』56巻3号、2010、pp5-10。
- [2] 黒龍江省農墾緑色食品弁公室「耕耘黒土地 緑色北大荒・墾区緑色食品20年発展歷程及成就与展望」『北大荒日報』2010年5月18日。
- [3] 鄒金蘭・四方康行・今井辰也「中国における有機食品、緑色食品の生産と流通」『農林業問題研究』第44巻第1号、2008、pp262-268。
- [4] 宋丹瑛「中国における緑色食品認証制度の展開及び地域農業」『地域政策研究』第10巻第3号、2008、pp65-76。
- [5] 陳徳江・劉坤・盛田清秀・清水みゆき「黒龍江省国営農場における経営管理体制の変遷に関する研究」『食品経済研究』第38号、2010、pp4-19。
- [6] 趙海燕「中国における“三品”認証制度の展開と現状－無公害食品、緑色食品および有機食品について－」『フードシステム研究』第16巻第2号、2009、pp14-28。
- [7] 林学貴・神田健策「中国における「緑色食品」の認証と生産・販売の実態」『1999年度日本農業経済学会論文集』1999、pp426-431。